

ディスクロージャー誌
2017年度上半期

J A あかし

目 次

| | |
|------------------------|----|
| あいさつ | 1 |
| J Aのプロフィール | 2 |
| 1. 経営理念 | 2 |
| 2. 経営方針 | 3 |
| 3. 事業活動のトピックス | 3 |
| 4. 農業振興活動 | 4 |
| 5. 地域貢献情報 | 5 |
| 6. J Aあかしの自己改革の取り組み状況 | 6 |
| 7. 事業の概況（平成 29 年度上半期） | 8 |
| (1) 事業実績の推移 | 9 |
| (2) 自己資本比率（単体） | 9 |
| 8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況 | 10 |

あいさつ

日頃、皆さまには格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

J Aあかしは、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当J Aに対するご理解を一層深めていただくために、当J Aの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかりやすくまとめた「ディスクロージャー誌2017年度上半期」を作成いたしました。

皆さまが当J Aの事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

あかし農業協同組合
代表理事組合長 古河 克規

JAのプロフィール

| | |
|-------------|--|
| ◇設立 | 平成4年10月 |
| ◇本店所在地 | 明石市大久保町駅前1丁目7-4 |
| ◇出資金 | 423,379千円 |
| ◇総資産 | 1,986億円 |
| ◇組合員数 | 9,868人 |
| ◇役員数 | 17人 |
| ◇職員数(パート含む) | 82人 |
| ◇支店 | 5店舗 (大久保支店、江井ヶ島支店、大久保北支店、西明石支店、明石東支店) |
| ◇直売所 | 3店舗 (フレッシュ・モア大久保店・西明石店・大久保駅前店) |

1. 経営理念

- JAあかしは、農業振興を通じて、「食」と「農」と「緑」を守り、かけがえのない自然を次世代に引き継ぎます。
- JAあかしは、地域のみなさまとともに生き、地域のみなさまとの共感の中で、心ふれあう地域づくりに取り組みます。
- JAあかしは、高い倫理観と責任感を持ち、地域社会に貢献できる事業と組織づくりに取り組みます。

[基本理念]

JAあかしは、人と自然を大切にし、社会の発展と豊かな暮らしの実現に貢献してまいります。

◇ JAあかしは、人を大切にします。

◇ JAあかしは、自然を大切にします。

◇ JAあかしは、社会の発展に貢献します。

◇ JAあかしは、豊かな暮らしの実現に貢献します。

[基本姿勢]

◇ みなさまから信頼される JA

◇ 地域から必要とされる JA

◇ 社会に誇れる JA をめざします。

2. 経営方針

◇農業振興と地域社会への貢献

農業をめぐる環境は農業従事者の高齢化等極めて厳しい状況になっています。JAには、地域農業の特性を活かした基本目標を設定し、これらの実践を通じて農家所得の向上、地域の活性化等が求められます。当JAは、「夢と活力ある農業・地域社会」の実現のため、地域特性を活かした農業振興と心のゆたかさを実感できる生活環境の提供に努めます。

◇組合員と消費者の満足度向上

JAは日常生活のあらゆる場面に密着した事業を営んでいます。各種商品やサービスが多様化・高度化するなかで、利用者のニーズは安全、安心でかつ健康志向になってきており、またゆとりを重視する傾向が見られます。当JAは、JAが提供するサービスの質を高め、組合員と消費者のニーズに応えた、真心のこもった商品・サービスの提供に努めます。

◇信頼と期待に応える経営

効率的・効果的な事業運営を徹底します。当JAは、「強靱な経営体質」と「透明感のある組織運営」を構築するため、財務体質の健全性向上に努め、リスク管理態勢の確立とコンプライアンスを重視した職場づくりに取り組みます。

3. 事業活動のトピックス（平成29年度上期）

1. 平成29年6月24日 通常総代会
2. 平成29年7月22日、24日、25日 町ぐるみ健診

<ご案内>

イベント、商品紹介、事業等については、当JAの広報誌「フレッシュ！JAあかし」やホームページでもご案内しております。

ホームページアドレス <http://www.ja-akashi.or.jp/>

4. 農業振興活動

J Aあかしは、刻々と変化する農業を取り巻く環境に適切に対応し、協同組合として組合員の「営農と暮らし」を守り、地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて豊かな地域社会の発展を目指すために、次のような農業振興活動に取り組んでいます。

① 「所得増大」「生産量の拡大」に向けた取り組み

農業経営者の「所得増大」「生産量の拡大」のための販売力強化に向けた経営支援への取り組みに努めています。

② 安全・安心な農産物づくりへの取り組み

生産履歴記帳運動（トレーサビリティ）に取り組む、安全・安心な農産物の提供に努めています。

③ 部会組織の育成・支援

地域農業の担い手として、産直部会をはじめとする部会組織の育成・支援をすすめています。

④ 地産地消の取り組み

管内3ヶ所に農産物直売所（フレッシュ・モア）を設置し、「地産地消」として、地域の皆さまに地元の新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組んでいます。

⑤ 食育の取り組み

「農業とのふれあい」をテーマとして、田植え・稲刈り等の農作業体験、植え付けから収穫までを実際に体験できるさつまいも、キャベツ、ブロッコリーの栽培体験イベントを通じて、子供たちに食と農の大切さを伝えています。

5. 地域貢献情報

J Aあかしは、協同組合活動の原点である「組合員の営農と暮らし」を守り、地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するため様々な活動を展開しています。

1. 社会貢献活動

- ① J Aバンク兵庫地域貢献事業「小学生の環境保全教育応援事業」
- ② 偽造キャッシュカード対策・振り込み詐欺対策
- ③ 子育て応援活動の実施（あかし子育て応援企業として認定）

2. 地域貢献活動

(1) 地域からの資金調達の状況

- ① 貯金残高（平成 29 年 9 月末現在）

（単位：百万円）

| 種 類 | 残 高 |
|-----|---------|
| 当座性 | 36,313 |
| 定期性 | 150,840 |
| 小 計 | 187,153 |
| 譲渡性 | — |
| 合 計 | 187,153 |

(2) 地域への資金供給の状況

- ① 貸出金残高（平成 29 年 9 月末現在）

（単位：百万円）

| 種 類 | 残 高 |
|---------|--------|
| 農業近代化資金 | 1 |
| その他制度資金 | 0 |
| 農業関連融資 | 17 |
| 事業関連融資 | 7,623 |
| 住宅関連融資 | 20,675 |
| 生活関連融資 | 315 |
| その他 | 85 |
| 合 計 | 28,718 |

(3) 文化的・社会的貢献に関する事項

- ① 福祉活動
組合員・地域住民を対象とした健康診断活動に取り組んでいます。
- ② 職員の地域貢献への参加
地元の清掃活動に参加するなど、地域に根ざした活動を実践しています。
- ③ こどもサポート定期貯金の募集
残高の0.01%相当額を明石市こども基金に寄付いたします。

6. J Aあかしの自己改革の取り組み状況

(1) 自己改革の考え方について

農業とJ Aを取り巻く環境は、人口減少・少子高齢化の進展、耕作放棄地の増加、また、T P Pの大筋合意による地域農業への影響の懸念等、課題が山積しています。さらには、政府による農協改革と、それに伴う農業協同組合法の改正は、J Aの組織運営にかつてない大きな変革を求めています。

このような厳しい環境のなか、当J Aは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」としての使命を果たしていくため、地域の実態やこれまでの取り組みの課題をしっかりとふまえた自己改革に着実に取り組んでいくことが重要であると考えています。

(2) J Aあかしにおける自己改革の取り組みについて

当J Aでは、自己改革の取り組みを、「食」と「農」をテーマとした3か年計画（平成28年度～平成30年度）に反映しています。

J Aあかし 3か年計画（平成28～30年度）の基本方針

【テーマ】

「食」と「農」を柱とした地域貢献活動の展開と利用者および地域社会との共存

【重点項目】

- ① 魅力ある農業の実現と発展
- ② 地産地消による地域農業の確立
- ③ 次世代とつなぐ食農教育活動の強化
- ④ 多様な利用者のニーズを反映するJ A総合事業の展開
- ⑤ 経営管理体制とリスク管理体制の強化
- ⑥ 自ら考え行動できる人材の育成

なかでも、最重点課題である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の達成に向けた取り組みについては、役職員が一丸となって取り組んでいます。

(3) 今後の取り組みについて

『J Aあかし自己改革』に掲げる取り組みについては、3か年計画および単年事業計画の中で重点的に進捗管理を行い、着実に実践していきます。

今後、組合員みなさまとともに話し合いながら自己改革を実践してまいりたいと思いますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

『JAあかし 自己改革』

【目標】

- 農産物生産の提案活動や販売先の開拓によって農業所得増大・農業生産拡大に取り組みます。
(受託)販売品販売高 平成 29 年度目標 115,000 千円 平成 29 年上半期度実績 43,663 千円
- 農業振興と農業所得増大のための生産基盤強化に向けて、農業施設整備・拡充の支援活動を行ないます。

【重点とする取組み】

○農業者の所得増大に向けた取組み

| 取組み | 具体的な内容 | 平成 29 年度上半期の取組み状況 |
|------------------|-------------------------|--|
| 販売力強化による農業者の収入増加 | 新たな販路の開拓 | <ul style="list-style-type: none"> ▶新たな販売先の開拓を図っています。 [28 年の新たな販売先の状況] (29 年度上半期販売実績) 15,773 千円 (7,624 千円増) |
| | 新たな農業施設投資への助成 | <ul style="list-style-type: none"> ▶農業施設（ビニールハウス）投資への助成・支援を行いました。 [29 年度上半期助成実績] 申請実績 1 件 ▶兵庫県の農業施設貸与事業の利用支援を行いました。 [29 年度上半期助成実績] 申請実績 1 件 |
| | 信用事業からの農業投資に対する融資等の支援活動 | <ul style="list-style-type: none"> ▶信用事業の面から地域農業の活性化に貢献すべく、農業融資に対して独自の利子助成制度を設けています。また、農業金融プランナーの育成に取り組んでいます。 [29 年度上半期現在] アグリマイティー資金 5 件 農業融資プランナー 14 人 |
| | 直売所の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ▶直売所施設の整備を行いました。 [29 年度] 全店のクレジットカード決済導入及び環境整備 |
| 農業者のコスト低減 | 育苗コストの低減 | <ul style="list-style-type: none"> ▶水稻苗の販売価格引き下げによるコスト低減に取り組みました。 |

○農業生産の拡大に向けた取組み

| 取組み | 具体的な内容・目標 | 平成 29 年度上半期の取組み状況 |
|-----------------|--|--|
| 農業所得アッププランの取り組み | 直売所を軸とした販売力強化新規作物としてスイートコーンの振興 [直売所売上高 30 年度目標] 198,000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> ▶新規作物としてスイートコーンを振興。作付拡大への支援として種子代の一部助成、出荷用資材の導入、視察研修、対面販売を実施しました。 [29 年度上半期実績] 作付面積 2.4ha 直売所売上高実績 [29 年上半期] 96,759 千円 |

○その他の重点取組み

| 取組み | 具体的な内容・目標 | 平成 29 年度上半期の取組み状況 |
|------------------|---|--|
| 地域農業の維持・振興への取り組み | JA 出資による農業法人の設立 (平成 29 年 10 月 2 日活動開始) | <ul style="list-style-type: none"> ▶魅力ある農業の実現と発展、持続可能な農業の確立をめざす農業法人「(株)クローバーファーム JA あかし」を設立し、JA による農業経営を中心とする活動により、地域の多様な組合員の声を反映した取組みを行ないます。 |

7. 事業の概況（平成29年度上半期）

日本経済は、企業収益の改善が続く中で緩やかに回復基調が続いています。2012年12月から始まった「アベノミクス景気」が、いざなぎ景気を抜いて戦後2番目の長さとなりました。ただ、内外需の伸びは弱く、雇用環境は良くても賃金の伸びは限られ、回復の実感は乏しいものとなっています。

農業面では、30年産を目途に行政による米の生産数量目標の配分が廃止されるなど、米政策の見直しに向けた産地の対応が求められています。また、TPP交渉は米国の離脱表明後、11カ国間で協定の早期発効を目指して協議が進められており、動向に注視する必要があります。

このような情勢のなか、JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、平成29年9月末日現在の当期剰余金は382百万円となりました。

1. 信用事業

住宅ローンについては定番商品となりました「あんしん家計（貯金連動型住宅ローン）」を積極的にPRし、地元住宅業者との連携を深めました。その結果、前年同様に実行金額18億円、期首来6.8%の増加と順調に推移しております。

また、小口ローン増強のため、外部講師による研修や「フリーローン教育型」などの商品開発に努めました。

また、兵庫県信連・厚生連の講師を招き、「セカンドライフセミナー」開催、健康管理や相続、遺言といった地域の皆様にとって関心の高いテーマを取り上げました。

2. 共済事業

今年度、13年ぶりに建物更生共済が仕組改定されたことを受け、組合員・利用者・地域の皆さまに対し、建物更生共済を中心とした保障提供に取り組みました。あわせて、少子化や高齢化の時代に合った保障として、年金共済を中心とした生存系保障の拡充に努めました。

この結果、長期共済の新契約は、9月末現在で69.2億円の実績となり、なかでも建物更生共済は64.7億円と大きな割合を占めました。

3. 購買事業

組合員のニーズに合った購買品の廉価供給をはかるため、予約購買に取り組みました。

この結果、購買品供給高は、9月末現在で4,737万円の実績となりました。

4. 販売事業

農産物直売所（フレッシュ・モア）を通じて、地元の新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組みました。

また、ヘアリーベッチ（マメ科ソラマメ属の1年草）また、市場を使って、減化学肥料、減農薬栽培に取り組んだお米に「ひょうご安心ブランド農産物」として、兵庫県からの認証を受け、JAあかしブランド米「花美人」として販売、普

及に取り組みました。

5. 指導事業

(1) 水稲病虫害発生予察・野菜病虫害発生予察情報を各農家に配布し、適期防除と減農薬栽培に努めました。

(2) 支店相続リーダーを配置し、組合員向けの相談窓口を強化しました。また、毎月顧問税理士による指導・助言を行いました。その他、JAバンク兵庫と連携し、相続遺言等個別相談会を隔月で開催し、資産活用や遺言作成等の多様な相談に対応致しました。

6. 利用事業

稲作農家の水稲苗の農作業効率を図る為に、水稲苗の軽量化、保水性の優れたマット苗に取り組み、水稲苗を10,494箱出荷しました。

(1) 事業実績の推移

(単位：百万円)

| | | 平成29年9月末 | 平成29年3月末 | 平成28年9月末 |
|------|----------|----------|----------|----------|
| 信用事業 | 貯金 | 187,153 | 185,535 | 184,181 |
| | 貸出金 | 28,718 | 27,551 | 26,256 |
| | 預金 | 163,458 | 162,291 | 162,577 |
| | 有価証券 | — | — | — |
| 共済事業 | 長期共済保有高 | 119,787 | 121,033 | 121,915 |
| | 長期共済新契約高 | 6,923 | 6,942 | 4,339 |
| | 短期共済新契約高 | 18,347 | 40,751 | 18,900 |
| 経済事業 | 購買品供給高 | 47 | 79 | 53 |
| | 販売品販売高 | 80 | 189 | 69 |
| | (直売所販売高) | (96) | (193) | (96) |
| | | | | |

(2) 自己資本比率(単体)

| 平成29年9月末 | 平成29年3月末 |
|----------|----------|
| 17.90% | 17.51% |

8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

(単位：百万円、%)

| 債権区分 | 平成 29 年 9 月末 | 平成 29 年 3 月末 |
|-----------------------|--------------|--------------|
| 破産更生債権及びこれら に準ずる債権 | — | — |
| 危険債権 | — | — |
| 要管理債権 | — | — |
| 小 計 (A) | — | — |
| 保全額 (合計) (B) | — | — |
| 担 保 | — | — |
| 保 証 | — | — |
| 引 当 | — | — |
| 保全率 (B/A) | — | — |
| 正常債権 | 28,738 | 27,576 |
| 合 計 | 28,738 | 27,576 |

(注) 1. 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として、次のとおり区分したものです。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権

法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

②危険債権

経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本および利息の回収ができない可能性の高い債権

③要管理債権

3か月以上延滞貸出債権(元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3か月以上延滞している貸出債権)および貸出条件緩和貸出債権(経済的困難に陥った債務者の再建又は支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権)

④正常債権

上記以外の債権